

【樹木の部屋】

ウバメガシ(ブナ科コナラ属 *Quercus phillyraeoides*)

和名：ウバメガシ(姥目櫨)

別名：イマメガシ(今芽櫨)、ウマメガシ(馬目櫨)、バベ

英名：Ubame oak

ブナ目 常緑広葉高木

原産地：日本、中国

花言葉：良質な、強力

花色：



← 写真-1 ウバメガシの立木

撮影日：2020年04月28日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

↓ 写真-2 ウバメガシの生垣

撮影日：2020年04月19日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ウバメガシの古葉

撮影日：2020年04月19日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-4 ウバメガシの新葉

撮影日：2020 年 04 月 28 日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-5 ウバメガシの幹

撮影日：2020 年 04 月 28 日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

↓▽ 写真-6、7 ウバメガシの雄花序

撮影日：2020 年 04 月 28 日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



乾燥や刈り込みに強いため、庭木として生垣や立木などに、また街路樹など、身のまわりでよく見かける樹です。

ウバメガシは常緑のカシ類では特に丸くて小さく、硬い葉を持つカシです。また、材は密で硬く、特に備長炭の原料として利用されていることでよく知られ、和歌山県の県の木にもなっています。通常は 5～6m 程度の低木が多いようですが、高いものだと 20m 近くまで成長するそうです。

樹形は、ごつごつしていて樹皮には独特の縦方向のひび割れが出ます。若枝には黄褐色の柔らかい毛が密生します。

葉は倒卵形で長さ 3～6cm、やや表側に盛り上がり、周辺には鋸歯があり互生します。また、葉はやや厚くて硬く、表面には光沢があります。雌雄同株、雌雄異花。新葉の展開と同時に開花し、雄花序が新枝の下部から垂れ下がります。花序の軸には星状毛が密生し、雄花の花被片は直径約 2.5mm。雄蕊は 4～5 個。雌花は新枝の上部の

葉腋に1～2個つきます。

堅果(どんぐり)は長さ2cm前後で楕円形、色は褐色。材は緻密で極めて硬く、比重も大きく、水に入れると沈みます。

葉の生える力がとても強く多く生えてきます。このため、剪定しないと日が当たらず、根元のほうは枯れてしまうことが多いので注意が必要です。剪定回数は1年のうち主に2回と少なめに。新芽が止まる4～6月ごろと成長が落ち着いてくる9月ごろが剪定の目安になります。3回目の剪定をするとすれば、冬の休眠(成長を一時的にやめる時期)が近づいて真上に伸びる枝(徒長枝)が発生しにくくなる10～11月頃に剪定するのがよいそうです。

てんぐ巢病やうどんこ病に注意が必要です。

てんぐ巢病に罹患した部分は、こぶ状になり成長が非常に悪くなります。病気の原因は“カビ”や“ファイトプラズマ”という菌です。対策としては、こぶ状になった部分より幹の部分を切り取り、その枝を焼却して下さい。菌によって植物のホルモンバランスが崩れ、竹ぼうきのように細い枝がたくさん生えてきますが、まともに育たずにやがてその部分は枯れてしまいます。

うどんこ病は葉に白い粉がついたように見えるため、比較的発見が容易な病気です。粉のように見える物質はカビの一種です。土の中にいる菌が風などで葉に付着して増殖したものが原因です。菌が葉の養分を吸い取り、発育が悪くなるので、白くなった葉を切り取り、その場で捨てずに焼却してください。

<ちょっと一言>

＊備長炭は着火までに時間がかかりますが、一旦火が点けば一日中もつ優れたものです。ちなみに「備長」は元禄時代にこの炭を初めて作ったとされる現在の和歌山県田辺市の「備中屋長左衛門」の名に由来するそうです。